

本来、このプログラムは、HIV陽性・陰性にかかわらず、クライアントが持っているさまざまな**感染リスクを低減（リスクリダクション）**するために、クライアント自身が採択しようとする行動変容の支援を提供しようとするものです。

クライアントは、そのおかれている社会情勢の中で、自分自身が目指そうとする行動変容を達成させるため、その所属する集団や援助を求める対象の団体など、周囲からの援助を必要とする場合がよくあります。そこで、私たちは、「周囲」として、看護師や患者団体の相談的役割を果たす人、NGO団体の患者支援担当者などを考え、この方々に、このプログラムを理解していただき、陽性者・患者に対する支援方法の一選択肢としていただくことで、支援方法の拡大を図ろうと考えました。

(2) 研修会の目的

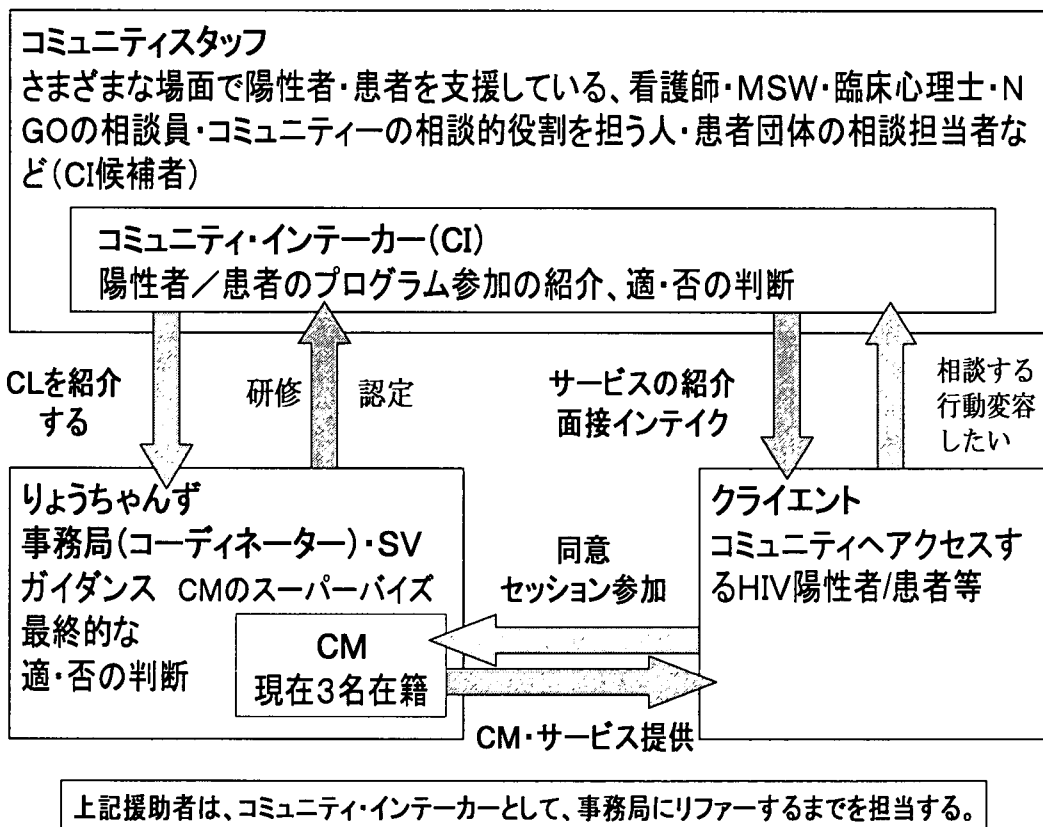
- ① プログラムの理解
- ② 「コミュニティ・インターカー」の役割の理解
- ③ 「インターカー」「ケースマネージャー」に対する興味関心の確認

この説明・研修会の参加によって必ずケースマネージャーになっていただくということではありません。ケースマネージャー養成研修は別途行いますので、希望される方は事務局までお知らせ下さい。

3 インターカーの動き（今回は、介入対象者を陽性者・患者に限定して考えました）

(1) サービスの流れ

体系化されたサービスの動き



(2) アセスメントの中身

① これまでの性行動に対する顧み（かえりみ）

反省という意味ではありません（陽性者・患者にそれを要求はしません）。どのような性行動を行ってきたかを確認し、自分の今までの性行動を自覚すること。（下記した、「ノンジャッジメンタル」の姿勢で）

② 陽性者・患者の心理的レディネス（自分の性行動に対する自己評価の状況把握）

自分の性行動に対して、迷い・反省・後悔・など、葛藤状態にあること。

また、変えてみたいという思いがあること。

③ 4回にわたり、プログラムに基づくサービスを実施するが、その回数をこなせる意欲があること。

なお、コミュニティ・インテーカーは、患者さんがこのプログラムに適さないと判断した場合は、別の援助方法の提示をすることも考えなくてはならない。

(3) インテーク時の基本的態度

性行動が語られるとき、「ノンジャッジメンタル（非評価的）」「ノンディレクティブ（非指示的）」な態度で臨むことが大切です。（第6章参照）

<患者が傷ついた発言事例>

① 「え！まだそんなことやってるの！

せっかく、自分の性行動について正直に語ろうとしているのに、いきなり評価的発言が寄せられ、しかも否定的に言われて、言葉を継げなかった。

② 「そうか、使えなかったんだ。どうしてつかえなかったんだろうね？」

一見、受容的に聞こえるが、まなざし、言葉の調子等による、〈なんでつかえなかったんだよ！それくらい簡単だろ！〉という感情が、伝わってくる場合。ステレオタイプの反応の問題点。

4 ま と め

今年度の研究では、「さまざまな場面で陽性者・患者を支援している、看護師・MSW・臨床心理士・NGOの相談員・コミュニティの相談的役割を担う人・患者団体の相談担当者など」を、コミュニティ・インテーカーとして位置付けさせてもらいました。

別添の、「ケースマネージャー研修テキスト」にあるように、1対1の面接を通じた行動変容のひとつの方法として、皆様方にご理解いただければ幸甚に存じます。

今後、更なる内容の充実を図ってまいりたいと思っておりますので、宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

ケースマネージャー研修テキスト

1 ケースマネージャー（CM）の動き

インターカーからリファーされたクライアント（CL）に対して、4回のセッションで、プログラムを完了します。

ケースマネージャーの動き

CIから紹介されたクライアント（CL）に対して、4回のセッションで、プログラムを完了します。

1回目 CLに対して、ガイダンスの再確認、プログラムを説明した上で、参加する意思の確認（同意書作成）とライフストーリーの聞き取り

同意されない場合は、CIに報告する

2回目 リスクアセスメント及びニーズアセスメントの実施。

これに基づき、スーパーバイザー（SV）とCMのカンファレンスを行う。
行動計画に盛り込む内容の検討を行う。CMのフォローアップ

3回目 1、2回目の話し合いに基づいて、CLのできる行動変容のための「目標」設定（行動変容計画書の完成と実行）

行動変容計画書を事務局コーディネーターに提出

4回目 その目標達成度についての実感検証。その後終了時アンケートを作成。リソース先情報提供等

（SVとのカンファレンス。他機関へのリファーの必要性の検討。
アンケートに基づくCMの動きに関する振り返り。）

2 このプログラムの具体的展開

（1）クライアントとの確認事項

すでにCLは、りょうちゃんずコーディネーターから、このプログラムについてガイダンスを受けているが、再度、プリントされた下記のグランドルールと同意書の内容をCLとCMとで読み合わせによって確認し、参加の意思表示を同意書の作成で示してもらう。

グランドルール

- 1 このプログラムは、ケースマネジャー（CM）とクライアント（CL）の1対1の予防支援を原則とします。
- 2 CMとCLは、このプログラムを媒介にした関係にとどめておいてください。
（緊急に、心理的介入を必要と感じた場合は連絡していただいて結構ですが、話をお聞きした上で、「りょうちゃんず」とかかわりを持つ臨床心理士などの心理専門家を紹介します）
- 3 面接中に辛くなったときは、CMにその気持を必ず伝えてください。
- 4 したがって、無理にCMの質問などに応える必要はありません。質問に答えたくなければ、遠慮なく「答えたくありません」「答えたくないんですけど」などの気持を、言葉で表現してください。CMは、否定的に捉えることなく、CLの感情を受け入れることの出来る訓練を受けています。
- 5 このプログラムは、CMとCLの二人の面接によって進行していきますので、監察（観察）者はいません。しかし、面接中、二人の関係に危機的状況が登場することを防止するために、面接場所を、周囲に関係の無い人たちがいる、喫茶店やファミリーレストランなどに設定します。そこでの費用は、「りょうちゃんず」が負担します。
- 6 このプログラムは、途中でやめることも出来ます。なお、その場合は、CMと相談してください。抽出された課題などについて、再度相談したい場合には、下記のコーディネーターに連絡をしてください。途中からの再開はしませんので、プログラムのはじめに戻ります。
- 7 プログラム終了時に、更なる効果的支援の糧にするために、このプログラムに関するアンケートに答えていただきます。記述することに抵抗のある場合は、口頭でもかまいません。そのときに申し出てください。
記名形式になっていますが、通称、イニシャルでもかまいません。
- 8 CMの対応に疑問や不安がある場合は、コーディネーターに連絡してください。スーパーバイザーとともに適切に対応します。
- 9 面接で話された内容については、CM・CLともに秘密を厳守してください。
- 10 面接過程は、同意書に署名された氏名を匿名化した上で、研究分担者間で共有化します。また、研究班のトライアル事業ですので、学会・研究成果発表会などで、公表する場合がありますが、個人が特定できないようにさまざまな手立てを講じて改変作業を行い、その発表内容をCLに確認し、了解を得た上で公表します。

連絡先

プログラムコーディネーター 早坂 典生（りょうちゃんず事務局長） 電話： 082-250-6106

E-mail : peer@triton.ocn.ne.jp

尚、スーパーバイザーは、臨床心理士の荒井 和水が担当します。

同意書

① プログラムの概要説明

- あなたの性行動の中でどのような感染リスクがあるのかをより明確にしていきます
- そのリスクを出来るだけ低くするためにはどういうことが必要なかを話し合います
- それに基づいて、行動変容計画を共同作業で作ります
- 感染リスクにどういった変化をもたらすことが可能なのか、その実感を検証していきます

② ケースマネージャーの責任と義務

- すべての情報を守秘義務をもって扱います
- ノンジャッジメンタルまたはノンディレクティブなアプローチを試みます
- クライアントとの健康な関係性を保つよう振る舞います
- 約束や時間は厳守します
- クライアントの話をメモすることがありますが、その際、クライアントの了解を得ます

③ クライアントの責任と義務

- 4回のセッションに参加してください（間隔は、話し合いで決めます）
- セッションには遅れないようにしてください
- セッションに遅れる、あるいは行けなくなった場合は連絡をしてください
- 正直な感想や率直な意見を述べるようにしてください

④ サービスのコストや金銭の授受

提供されるサービスはすべて無料ですので、金銭の授受は一切ありません

追記1: 当研究グループは、厚生労働科学研究「若年者等におけるHIV感染症の性感染予防に関する学際的研究(主任研究者:木原雅子/京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)」の分担研究(「りょうちゃんず」が担当)として活動しております。

追記2: 「りょうちゃんず」は、1996年に広島県で発足したNGOで、HIV陽性者とその支援者を中心に活動をしてきました。主な活動は、HIV陽性者のための電話相談、面談相談といったピアカウンセリング、厚生労働科学研究グループの中でプリベンションケースマネジメント(PCM)という手法を使った予防介入研究、HIV陽性者ネットワーク化による支援活動、当事者や医療、看護、心理、福祉といった方々の講演活動など、幅広く行っています。(ホームページをご参照下さい <http://www6.ocn.ne.jp/~ryochans/>)

グラドルールを含めた、上記の事柄について理解いたしましたので、このプログラムに参加いたします。

クライアント: 氏名 (通称・イニシャル可)

日付

上記の事柄に基づき、出来る限りの最良のサービスを提供いたします。

ケースマネージャー: 氏名

日付

(2) リスク及びニーズ・アセスメントの下記のポイントを口頭で聞き取りをし、ケースマネージャーはメモする。

① 健康—H I V陽性の場合

H I V陽性のクライアントの場合、基本的な情報の提供を依頼し、クライアントの置かれている状況を把握する。

1. 最近の血液検査結果
2. 日和見感染歴
3. 結核検査の受検歴
4. 通院の有無

② H I V治療へのアドヒアランス

抗ウイルス剤などの治療を行っているH I V陽性者のみ

複雑な薬の選択や服薬時間のアドヒアランス、薬剤耐性との折り合いなどに関する情報を入手する。

1. 抗H I V剤のアドヒアランス
2. 日和見感染の治療のアドヒアランス
3. アドヒアランスの阻害要因
4. アドヒアランスの促進要因
5. 複雑な治療を続ける能力と目的意識

③ S T D歴

S T Dの予防、診断、治療は第一次、第二次感染予防に重要な要因となります。とくに梅毒、B型肝炎、クラミジア、淋病についての情報は不可欠。

1. S T D病歴
2. S T D治療歴

④ セックス一般

クライアントの性生活に関する包括的な情報は、リスク行動と深く関わっています。時間をかけながら、次の事項に関するアセスメントを行います。

1. セックスパートナーの数
2. 現在のパートナーとの性的な関係性
3. パートナーのH I V感染について
4. パートナーのリスク行動
5. セックス内容との頻度
6. 性的な虐待
7. セックスにおけるアルコール（あるいはドラッグ）の役割
8. コンドームの使用状況
9. コンドーム使用への阻害・促進要因
10. セーフターセックスに関する知識

⑤ H I V・S T Dに関する知識や情報

クライアントが持っているH I VやS T Dに関する知識や情報は、クライアントが認知している自

分自身のリスクと深く関わっています。クライアント自身の言葉を聞き出しながら、次の事項に関するアセスメントを行います。

1. HIVの感染経路
2. HIVを含む体液
3. HIVのウィンドウ・ピリオド
4. 抗体検査や陰性・陽性の意味
5. 抗体検査場に関する情報
6. STDとHIVの関連
7. STD一般に関する知識
8. HIVの薬や治療方法
9. コンドームの有効性

⑥ HIV感染リスク低減のためのスキル

クライアントが次の事柄に関して、どのようなスキルを有しているのかをアセスメントする。

1. コンドームのイメージ
2. コンドーム・ネゴシエーションや性行動
3. 生活環境の中でのコンドーム入手の容易性
4. コンドーム有効性への理解
5. コンドームの正確な使用方法への理解

(3) 行動変容計画の作成

クライアントが、マネージャーとともに行ってきたアセスメントの過程で、自覚的になった自分の性行動のリスクを、どのように低減・遁減（リスクリダクション）できるか、クライアントのできる範囲の中で考えてもらい、目標を設定する。それを文字化することによって、自分の課題を明確に意識できるようにする。（下記の計画書の作成）

行 動 計 画 書

これまでの面接の中で、リスクについてのアセスメントと、これからの性生活に関するニーズを確認してきましたが、それに基づき、予防行動計画書を作成していただきます。

目標に、短期と長期の二つを設定し、短期は、1週間から1ヶ月、長期は、2ヶ月から3ヶ月が目安となります。

長期目標：

目標達成期限：（ 年 月 日）

短期目標：

目標達成期限：（ 年 月 日）

クライアント氏名

日付

3 インターカー・ケースマネージャーが必要とする面接技法

① クライアントセンタード

日本語では、「来談者中心療法」と訳されています。「ノンディレクティブ（非指示的）療法」ともいいます。

傾聴 受容 共感

この3点を強調しています。

まさに「来談者中心」ですので、自分の考え方や、世間的道徳などを押し付けることなく、「受容的」に「傾聴」し、そのなかで「共感」も表現する、という姿勢が中心になります。

学校の教員は、生徒と面接するときに、一番この姿勢を維持しにくい立場の人たちです。なぜなら、生徒と面接する時点で、すでに当該生徒の情報が面接する教員の中に入っているからです。しかも、生徒としてとるべき行動に対してどれだけ実践できているかという評価的な情報が入っています。たとえば、社会的行動規範が身についているかとか、授業中の態度はどうかとか、成績はいいか悪いかとか。ですから、素直に、生徒の言葉を受け入れにくい状況が出来てしまいます。

このことは、医療職にも言えることなのではないでしょうか。

アメリカのCDCは、この側面を取り出して、「ノンジャッジメンタル（非評価的）」という態度を強調しています。クライアントに対して、評価的な言葉を発しないという姿勢です。

したがって、クライアントに向かうときは、初対面のときのように

「いつも心はニュートラル」

② オープン・クエスチョン（OPQ）

この技法は、「はい」「いいえ」という答えが出てしまうような質問の仕方（クローズク・エスチョン：CLQ）をしないということです。以下、想定事例を見てみましょう。

（一応サービス提供者を「CM」と表示しましたが、「インターカー」も含めます。）

CM：こんにちは。このサービスは、HIVに感染したことで負ってしまった（評価的：「生じた」と言い換えたほうがいい）リスクを考えながら、あなたの健康な性行動をするため一緒に考えていくプログラムです。話せることは遠慮なくお話し下さい。また、答えたくないときは、正直にその気持ちを伝えてください。（受容的態度で臨みますよという姿勢表明）

こちらからも質問などもしていきますので、答えて下さいね。

まず、ご自身がHIV陽性者だということを受けとめてられていますか。（CLQ）

CL：そうですね。検査を受けて陽性がわかったんですけど、最初は信じられなくて、どうしていいか、わかりませんでした。誰にも相談もできないし、このまま死ぬのかと思いました。

（クライアントが賢くて、つなげてくれました）

CM：そうだったんですか。相当辛かったですね。今は少し落ち着いたのですか？（CLQ）

CLクライアント：はい、そうです。（この質問の仕方では、このように、ここで終わってしまいます）

CM：それは、どのようにして落ち着いたか、聞かせてもらっていいですか。（OPQ）

CLクライアント：はい。さっきも言いましたように検査で告知を受けまして、一応病院は紹介

してもらったんですけど、どうしても不安でネットでいろいろ調べてみたんです。そしたら、いろいろな団体があって、その中で電話相談をやっている〇〇という団体がありまして、電話してみたんです。

感じがよかったので、色々話しているうちに、少し気が楽になって…。

CM：そうですか。それってあなたはがんばりましたね。なかなか自分でことを起こすというのは難しいと私は思うのですよ。それが、あなたには出来たんですよね。（セルフエフィカシー〈自己効力感〉の涵養）そこで、このサービスを紹介されたんですね。

クライアント：はい。落ち着いてみたら、これから一生セックスができないのかなあとって…

③ パラフレーズ

クライアントのいった言葉を、そのまま使ったり別の言葉で言い換えたりして、短くまとめること。

三つの機能

- ・ 理解の確認をする
- ・ 明確化を図る
- ・ 適切な共感を示す

具体例を見てみましょう

CM：今日は、あなたの性行動について少し話を聞かせていただきたい（テーマの明示）と思うんですけど、いいですか。

CL：いいですよ。

CM：あなたは、今セックスをすることに対してどのように思っていますか。（OPQ）

CL：実は、①あまりセックスのことを考えられないというか、自分がHIVに②感染してしまって、すごく後悔しています。（①②どちらを拾うか。一般的に後から出てきたほうが、クライアントの本心に近い）

CM：そうですか、感染して後悔してらっしゃるんですね。（パラフレーズと共感）その辺のところを、もう少し詳しく聞かせてもらえますか。（OPQ：パラフレーズの後、この質問が必要かどうか。パラフレーズ後、間をおいて、反応がなければ、この質問するのがいいでしょう）

CL：今思うとHIVは新聞とかで患者が増えているみたいなことは聞いたことがありましたけど、まさか、自分が感染するなんて思ってもみませんでした。

CM：自分が感染の可能性のある性行動を行っているとは思っていなかったんですね。（パラフレーズ：少し「直面化」が早すぎるかもしれない）

CL：今までは、コンドームも使ったことなかったし、はっきり言ってHIVなんて関係ないと思っていました。まさか、自分が感染してしまって、今度は自分が感染させてしまうんじゃないかと不安で…

CM：（ ）

CL：それで、自分がHIVになってしまって、いつか病気で死んでしまうと思うととても結婚なんてできないし、病気のことも言えないし、どうしていいかわかりません。

CM：（ ）

4 リスクリダクション

クライアントへ及ぼしているであろう害を、すぐにすべて取り除くことが出来ないならば、それを少しでも小さくしていこう（逡減する）という考え方である。クライアントがこの作業を自分の能力や状況の中で自分のペースで進めていくのを、CMは援助していくのである。リダクションのモチベーションを高めるためには、成果として出来たことには、きちんと《ほめる》などの正しい評価を与えることです。

以下、想定事例を見てみましょう。

CM: 長期目標として「セーフターセックスを意識してコンドームをいつも携帯できるようにする」、短期目標として「コンドームいつも持ちやすいグッズを手に入れる」を行動変容計画として立てましたが、目標は達成できていますか。（CLQ）

CL: 実は、いつも持って歩いているわけではありません。携帯するためにケースを買い、街に遊びに行く時には、いつもカバンに入れておくようにしているんですけど、今日バッグが違うので忘れてしまいました。すみません。（このプログラムの課題を、義務的に感じているのかもしれない）

CM: いや、あやまる必要は無いですよ。（義務感の排除）

それどころか、「ケース」を買うことが出来たんじゃないですか。（CLの行動出来たことも明確化）
以前のあなたなら、コンドームなんて使ったこともないし、気持ちが萎えるからいらないといいましたね。それが今は、携帯ケースを買って、バッグに入れておけるようになったのですよ。それって、あなたにとっては大きな変化だと思いませんか。（自分の行動を肯定的に評価させるためのいざない）

CL: ああ、そうですね。

CM: 二人で決めた行動計画では、いつも持ち歩くことを目標にしていたけど、町に出て、ケースを忘れたことに気づいたらどうします？（OPQ）

CL: ウーン。夜、飲みに出ているときだったら、店においてあるコンドームをもらっていきますね。結構、恥ずかしくなく手にとることが出来ますから。

CM: なるほど。それ以外の場合はどうですか？

CL: そうですね、ホテルに入れば、備えつけのものもあるし、売ってもいるでしょうから・・・問題は、野外系のハッテンパですよ。

CM: よく課題が見えていますね。きちんと行動のあり方も考えられているし。感心しました。（肯定的評価）

5 リソースの活用

このプログラムは、個人、対象の予防介入を目的としているものであることから、心理治療としてのカウンセリングで扱うような内容を排除します。クライアントの感情を重視して対応することには変わりはないのですが、真実的悩みなどの相談については、心理治療の専門化にリファーする必要があります。また、個人的介入が、無理な様でしたら、他の援助方法を提示できるようにしなくてはなりません。

そのためには、このプログラム意外にどんな支援方法や団体があるか、リソースの確保が必要です。

出来るだけ、支援組織・団体のことを調べておきましょう。

また、CL自身が持つ、支援可能な社会的資源を利用することも考えられます。その点も聞き取っておくことが大切です。

6 アンケート

セッション終了時アンケート

次の質問について、そう思った度合いについて、5段階でお答えください。

思った度合いが低い					思った度合いが高い
1	2	3	4	5	

- 1 ケースマネージャーの対応は、受容的共感的な態度でしたか？
- 2 4回のセッションは、ながいとおもわれましたか？
- 3 行動変容計画を立てましたが、自分のニーズが反映されていると思われませんか？
- 4 このセッションを受けて、セーフターセックスの恒常的实践に抵抗はなくなりましたか？
- 5 このセッションを受けて、セーフターセックスの恒常的实践が継続的に出来るという自信は着きましたか？
- 6 このセッションについて、行動変容のきっかけ作りに役立つと思いましたか？
- 7 その他、感想をお書きください。
氏名（通称でも可）

インタビュー内容のプライバシー保護について

インタビュー協力者の方々へ

※インタビューを受ける前に読んでください。インタビュー内容のプライバシー保護に関する重要な約束事です。

1. インタビューの録音データは正確に起こしたうえで、ご本人に点検してもらい、個人的に伏せておきたい内容などがあれば、それを修正あるいは削除していただきます。

2. 内容について点検を経たインタビュー内容は、ご本人やお話の中に出てきたお名前を匿名化したうえで、研究分担者間でのみ共有します。さらに、学会や調査報告書などで研究成果を公表する場合、ご本人やその他の方々の個人名のみならず、地名や施設名、さらに必要であれば方言などの言い回しを標準語にする作業を行い、その発表内容をご本人に確認していただき、ご本人から了解が得られたものを、最終的に公表します。

3. インタビューの録音データは、直接聞き取り調査を行った研究分担者が厳重に管理し、本調査が終了した時点で、それをすべて廃棄します。

4. 上記の公表できるインタビュー内容作成の過程で、この調査に対する重大な疑義などが生じ、協力できないと思われた場合には、インタビューした内容を研究に使用することをいつでも拒否できます。

○なお、インタビュー内容の取り扱いなど、ご質問があれば、遠慮なく下記の連絡先までお問い合わせいただきますよう、お願いいたします。

研究責任者 「りょうちゃんず」藤原良次

研究分担者 早坂典生（りょうちゃんず）・山田富秋（松山大学人文学部）・
本郷正武（東北大学大学院文学研究科）・大北全俊（大阪大学大学院医学系
研究科非常勤職員）

連絡先 082-250-6106 「りょうちゃんず」

HIV陽性者AIDS患者
支援担当者殿

厚生労働科学研究「若者等におけるHIV感染症の性感染予防に関する学術的研究
分担研究者:藤原 良次(りょうちゃんず代表)

「ケースマネジメントスキルを使った HIV 陽性者のための性行動変容支援サービス」
に関する研修会のご案内

皆様におかれましては、日頃よりHIV陽性者の方々に対する支援にご活躍のことと存じあげます。現在、HIV陽性者が増加傾向にある中で、皆様の中にもHIV陽性者のセクシャルヘルスの維持、あり方、課題等、どのように支援すればよいかについてお悩みの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私たちは、従来のHIV感染予防のイメージが、HIV未感染者を守ることばかりを捉えており、さらにはHIV陽性者の性行動がまるでHIV感染の主原因であるかのような考えも存在し、一方では現実にはHIV陽性者が梅毒等のSTDに感染した場合の免疫低下リスク等は忘れ去られていることなど、HIV陽性者への性行動に対するネガティブなイメージが先行していると考えます。これからの予防には、HIV陽性者の性行動変容支援をすることが、HIV陽性者の健康支援につながり、結果としてパートナーへの感染を防ぐなど、HIV感染を減らす一助になると確信しております。

私たちは、一昨年度まで、米国CDCで開発されたPCM(プリベンション・ケースマネジメント)という手法を、性行動変容のための個人介入方法として、日本の現状を踏まえて導入する可能性を質的に検討してきましたが、その結果、予防に関する個人介入という効果性はあるものの、PCMの社会的認知、対費用効果、HIVに関連する業種(医療・行政・NGO支援者)の研修時間の確保の困難さ等、課題もあきらかになり、新たに、上記プログラムの立ち上げ・実施を研究することとなりました。

今回その一環として標記の研修会を開催することになりました。

つきましては、皆様にはぜひご参加いただき、当プログラムをHIV陽性者の支援方法のひとつとしてご理解いただくと共に、リソースとしてのご選択をいただき、今後は所属先でのHIV陽性者へのご紹介(インテーク)、さらには「ケースマネジャー」となっていただきたく、ご案内申し上げます。ご多忙のところと存じますが、奮ってご参加のほど、よろしく願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成20年4月20日(日) 10時から17時

2. 場 所 島嶼会館(とうしょかいかん) 東京都港区海岸1-4-7 電話 03-3437-3061

3. 参加資格 HIV陽性者AIDS患者支援担当者

4. 申込・問い合わせ先

りょうちゃんず(担当/藤原・早坂)

ケースマネジメントスキルを使ったHIV陽性者の性行動変容支援サービス

事務局:082-250-6106

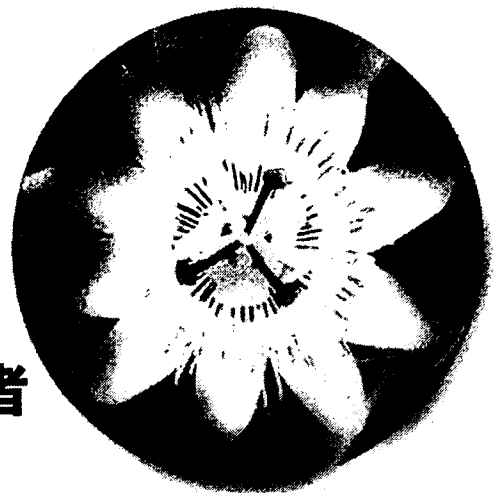
E-mail:peer@triton.ocn.ne.jp

5. その他 この説明・研修会の参加によって必ずケースマネジャーになっていただくということではありません。

ケースマネジャー養成研修は別途行いますので、希望される方は事務局までお知らせ下さい。

当研究グループは、厚生労働科学研究「若年者等におけるHIV感染症の性感染予防に関する学際的研究(主任研究者:木原雅子/京都大学大学院医学研究科社会疫学分野)」の分担研究として活動しております。

**NGO職員
カウンセラー
ソーシャルワーカー
看護師 など、**



**HIV陽性者 AIDS患者 支援担当者
の皆様へ**

セミナーのご案内

テーマ：
HIV陽性者の性行動について
ケースマネジメントスキルを使用して
その健康維持のための変容を支援する

日時：平成20年 4月 20日 (火)

場所：島嶼会館 (とうしょかいかん)

東京都港区海岸1-4-7 電話 03-3437-3061

JR浜松町駅から徒歩1分

対象：HIV陽性者AIDS患者支援担当者

費用：無料 (交通費支給あり)

HIV陽性者がSTI感染した場合、免疫低下などでHIV未感染者に比べて大きなリスクを負います。また、薬剤耐性をもったHIVが発生した場合、治療上に大きな困難を生じます。

しかし、HIV陽性者の性行動にネガティブなイメージを持ったままになりがちな従来の支援・対応では、HIV陽性者の性行動を変えさせることは困難でした。

このため今回「HIV陽性者の性行動についてケースマネジメントスキルを使用して その変容を支援するサービス」に関するセミナーを設けることにいたしました。

HIV陽性者を支援するサービスの質的向上を図り、これによってHIV陽性者が自ら性行動を、その健康性を維持するために変容させることができるようになることを目的とします。

この研修会は、医療・行政・NGOなどでのHIV陽性者支援担当者・AIDS患者支援担当者を主な対象としています。

また、参加者の中でケースマネージャーになっていただける方には、さらにケースマネージャー養成研修も準備しています。

申込み・問い合わせ先：りょうちゃんず (藤原・早坂)

電話：082-250-6106

E-mail：peer@triton.ocn.ne.jp

**平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
若年者等における HIV 感染症の性感染症予防に関する学際的研究**

2008 年 3 月 31 日 発行

代表者 木 原 雅 子

連絡先 京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻社会疫学分野
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
TEL 075-753-4350 FAX 075-753-4359

©2008

印刷 サンコー印刷 KK

本報告書に掲載された論文及び調査票には著作権が発生しておりますので利用にあたりご留意下さい。